

様式（第5条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第1回行田市史編さん委員会
開 催 日 時	平成28年1月14日（木） 開会：13時30分 ・ 閉会：15時30分
開 催 場 所	行田市郷土博物館 会議室
出席者（委員） 氏 名	岸田 昌久 劔持 和夫 津田 馨 向井 隆健 田村 均 田代 脩
欠席者（委員） 氏 名	小島 孝夫 根岸 茂夫
事 務 局	生涯学習部長 猪野塚敏和 文化財保護課長 中島洋一 市史編さん担当嘱託 久保康顕
会 議 内 容	別紙会議録のとおり
会 議 資 料	・ 会議内容レジュメ ・ 自治体史普及版の刊行状況（表） ・ 普及版の記述量と版型、内容構成見本
そ の 他 必 要 事 項	

発 言 者	会 議 の 経 過（議題・発言内容・結論等）
	*市民憲章唱和 1. 開会 2. 委嘱状の交付 3. あいさつ 4. 委員長等の選出について ・本日の会議は、委員8名のうち2名欠席となっており、市史編さん委員会条例第6条の2、委員会は委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないとあるが、本会は内容を満たしているので開催する。 ・はじめに、委員任期の改選により、委員長の選出を行いたい。希望される方はいるか。 ・事務局に考えはあるか。挙げてもらい他の委員も異議なければその方をお願いしたい。 ・引き続き岸田委員に委員長をお願いしたい。いかがか。 ○異議なしの挙手あり ・異議なしということでよければ、岸田委員に引き続き委員長をお願いする。 続いて副委員長の選出を、委員の互選ということで委員長からお願いしたい。 ・副委員長の選出は、行田市史編さん委員会条例第5条により委員の互選によりこれを定めると規定されている。立候補もしくは推薦があるか。 ・事務局で推薦はあるか ・行政での経験を生かして津田委員に副委員長をお願いしたい。 ・津田先生、よろしいか。他の委員さんはよろしいか。 ○はいの返事あり ・では、津田先生に副委員長をお願いしたい。 5. 議事 では、議事に入らせていただく。次第の（1）市史編さん事業の経過報告について事務局から報告願いたい。 ○P3（1）①行田市史概説書『新しい行田の歴史（仮称）』刊行関係、②事務局の活動について、を資料に基づき説明。 ・今、事務局から説明があったことについて質問はあるか。 ・事務局の活動についての二つめ、民俗編の編さんにとまなう調査写真の整理と目録の作成で、アルバムや電子データの整理をしているということだが、ホームページ等で閲覧できるようなものか。 ・今のところそこまでのことは考えていない。今は目録を作成している。撮影物、撮影日、保管場所等を入力して整理している段階で、デジタルデータとなっている。今後、紙に印刷し見やすいようにし
猪野塚部長	
猪野塚部長	
事務局(中島)	
事務局(中島)	
田代委員	
事務局(中島)	
委 員	
事務局(中島)	
岸田委員長	
事務局(中島)	
岸田委員長	
委 員	
岸田委員長	
岸田委員長	
事務局(中島)	
岸田委員長	
事務局(久保)	

岸田委員長	ていこうとしている段階である。 ・隣の熊谷市などは、デジタル美術館や、地元の画家の作品や文化財などをホームページから閲覧できるような仕組みになっている。図書館運営協議会の委員もやっていることから、他の図書館を見ていると、市民の方に足を運んでもらうこと以外にもホームページで、いろいろな資料を見てもらおうという動きある。行田市も、スマートフォンやP Cなどで市民が覗けるようなものを、税金を使って集めた資料を市民に還元できるようなしくみを創っていければと思ひ先の質問をした。
事務局(中島)	行田市立図書館にも、入って右側の部屋が行田市民に資料を閲覧するための部屋がある。その中に市史編さんの資料があるとよい。 ・一部写真掲載の問題があり作成していない部分もあるが、指定文化財はホームページで閲覧可能な状態になっている。しかし、未指定の文化財までは手が回らないのが現状である。熊谷市や合併前の騎西町等はデジタルミュージアムがあった。合併前の騎西町は博物館が無い代わりにホームページに掲載していたことは確認している。行田市も早めに掲載する方向で検討をしたい。
岸田委員長	・土器を回転させて見せるというホームページもあった。
事務局(中島)	・そうした掲載のしかたは、お金がかかるので難しい面がある。
岸田委員長	・他に質問はあるか。
田代委員	・新井和夫家の参宮日記の内容はどのようなものか。戊辰戦争との絡みの記述や感想はあるか。
事務局(久保)	・「参宮日記」というものは形式が決まっているようで、宿泊・名所などの一定の事柄の記載しかないようだ。戊辰戦争にからむ記述は1・2箇所のみで感想は無く、道中無事に行ってこられたという事実だけはわかる。新井氏は忍藩領でなく旗本領の名主であった。武士・名主の時代が終わるといふ大きな変革があるとの認識から出かけたと、新井家に言い伝えられている。
田代委員	・その参宮日記は忍藩領で無いため市史に収録しなかったのか、存在していたがあまり面白い話ではなく近世資料編に収録しなかったのか。
事務局(中島)	・市史刊行時には把握をしておらず、刊行後に把握した資料である。戊辰戦争に関する記述がほとんど無いとはいえ、そのような混乱期に無事にお伊勢参りができたことに、戊辰戦争を考えるうえで興味深い点がある。
岸田委員長	・他に質問があるか。無いようであれば、次の(2)行田市史概説書『新しい行田の歴史(仮称)』の刊行について事務局より説明をお願いします。
事務局(中島)	○市史の刊行計画の経過を説明。 ・そもそも昭和38・39年にかけて上下巻の市史の刊行があった。その後、地域研究の進展をふまえて全面改訂の新しい市史を刊行したかったが、一度刊行されているということで新たな市史編さん事業は認められなかった。ただ、昭和30年代の市史上下巻が取り扱わなかった部分 ～近現代や資料集～ の補充は承認され、現在まで、近現代通史にあたる『続巻』1冊、時代別の資料編8冊を刊行

岸田委員長 事務局(久保)	しているところである。 最新の研究成果を生かした資料編は研究者向けである面があり、今回の概説書はそうした研究成果を市民向けに読みやすい形に解説するものとして了承を得、刊行を進めている。 ・今の説明について質問はあるか。なければ次の説明をお願いします。 ・P4の(2)①から説明 ① 刊行について…既刊の民俗資料集のような仕立て。ページ数は増えるので若干厚くなる。また、原価から割り出した販売価格を例示。 ② 名称について…参考資料(他市町村の概説書名称一覧)をふまえ題名を例示 ③ 編集方針…資料1. 2. 2段組、カラーをふんだんに使い、発色が良いように白い紙を使用。 ④構成について…資料3 ⑤作業計画
岸田委員長 田村委員 事務局(久保)	・説明を受け、意見・質問はあるか。 ・見本に置かれた他市町村の本を見た。写真や図版がメインのビジュアル版ということでしょうか。 ・見本に置いた冊子のように画像がメインというより、説明を入れ文字を多めにしたものを計画している。
田村委員 岸田委員長	・文章で説明をし、補助として図版が入ることか。 ・既刊の通史は、だいぶ古いものであり、現在刊行作業が続けられている資料編は史料を収録したもので一般市民にはストーリー性がつかみづらい。普及版という形で、ストーリー性のあるものを編集する方がよいと思う。
田代委員	・現在の行田市史の編さんは中島課長の説明にあったように、きわめて変則的である。通常は、資料編の作成、その資料編に基づいて通史を編集、そして通史編の後にコンパクトにまとめた普及版またはダイジェスト版を編集するものだ。行田の場合は違い、最新の資料編は出たが、通史は昭和30年代のままである。したがって、そのような通史の状態を補うものとして、先ほどの委員長発言のとおり、図版の説明がメインになるビジュアル版でなく、行田の歴史を古い時代から現在までストーリー性のある1冊の本でわかり易く、という方向で編集を進めているところである。
事務局(中島)	今回は本の題名を決めるということも議題に入っているが、行田市史の中の普及版とすると、素直に『行田の歴史』という名前がいいと思う。または、『行田の歩み』などはいかがだろうか。だが、今までの例をみると、“あゆみ”という名称の入ったタイトルは多い気がする。 ・民俗資料編が民俗のビジュアル版的な位置づけであり、“民俗”と入れている。同じように“歴史”をいれて、行田の歴史という名前を挙げてみた。
田代委員	・あまり奇をてらった名前にしないで“行田の歴史”という名前が妥当ではないか。
事務局(久保)	・字体は、今までの字体を踏襲し“行田市史”を毛筆体とし、イメ

事務局(中島)	ージは資料編の民俗と同じ形を予定している。 ・前々から仮称という形で同じタイトルを使っているが、まだ決まっていない。この委員会で決定してもらい刊行としたい。
田村委員 事務局(中島) 剣持委員	・他に題名の例はないか。 ・事務局では、提案した『行田の歴史』というタイトルとなる。 ・市史編さんの流れは先ほどの説明で理解したが、刊行した際、市民は、古い市史が刊行されていることを知る人はほとんどいないので一体何の普及版なのか、わからないのではないかと。歴史関係の方や好きな方でないと知らない通史に対しての“普及版”といわないほうがいいのではないかと。
事務局(中島)	・今、頒布をしておらず図書館の等に行かないと見られないことは確かであるが、年配の方は持っているという話も聞く。
田代委員	・普及版は、市民を対象としたものである。かなり内容を細かく叙述した通史編があれば、それを簡略化して普及版と呼ぶイメージができるかもしれないが、今回はそうした手順をふまえた普及版では無い。しかし、限られたページの中で、1冊の中に歴史を全部詰め込み、一般の市民の方にも分かりやすいようにできるだけコンパクトに内容を精査した形で叙述をしている。
田村委員	・かなり苦勞して編集にあたっているというのは分かるが、“概説書”という題名は少し違うのではないかと。
事務局(中島)	・それは、あくまでも契約書上の仮称。題名はこの委員会で正式決定することになるので、過日の入札時には仮称での契約をした。従って仮称に関係なく、この委員会で決定をお願いしたい。 なお、今までの資料編に対し、今回の本の位置づけを明確に表すために、題名の例には普及版の語を使ったものを示した。また本冊は一般向けに簡略に書いており、通常に通史とは意味合いが違うので、そうしたことから“普及版”とした。概説書では硬いイメージである。
田村委員	・言葉にこだわったが、刊行についての内容部分の説明を聞いたところ、既刊の通史に対し概説書的な意味ということで、これしかないというのであれば資料編に対しての普及でかまわないと思う。
岸田委員長	・今回刊行される本の中に資料編のどこに記載してあるかという参照は入っているのか。それが資料編のPRにもなるのではないかと。
事務局(久保)	・記述内容が、資料編に収録された史料のいずれを参照したのか、ひとつひとつ本文中で示すとなると、頁数の制約があるなかでは難しい。主な参考資料というような欄をつけるということは可能であると思う。基本的な参考文献はスペースを設けて示す予定であるので、その中でPRできるような方策を考えていきたい。
岸田委員長 事務局(中島) 田村委員	・その辺りも検討していただきたい。 ・わかりました。 ・私は平成11年から近代分野の資料編づくりに携わっているが、10年・20年後に今収集している資料も入った新しい通史編が出る可能性もあると思い、今後そのような通史編につなげる気持ちで本冊の近代分野を編集している。非常にページ数が少ないが、短文にトピックスを入れることによって、これまで営まれてきた行田の

事務局(中島)	人びとの歴史や生活が未来につながるようにということで書いた。普及版という名称は少し違和感があったが、他の委員さんのご意見を伺い、消去法ではあるがこれが一番の名称になると思う。 今後、通史編の編さんはないのか。 ・事務局として出したくないわけでないが、市の他の事業のこともあり、なかなか思うように計画できない状況である。今回の普及版刊行により、市民の方からも現時点での新たな通史編を作ってほしいという声上がるのを期待している。
田村委員	・資料編が整ってから通史、普及版となるのが、埼玉近辺の県史・市史などと同じ一般的な流れだ。しかし、出版できるということ自体も大事な流れである。 この博物館の資料の収集状況は非常に高い。特に、私の関係する明治以降で、他の市町村は若干、不十分な収集状況で市史を刊行しているところがあるが、ここの8万点のデータベースも博物館ができたときからきちんと作成されている。市内の諸家文書もかなり調査をされている、という点では行田市郷土博物館の業務内容を評価している。変則的な編さん状況であるが、ここまでたどり着いた感はある。博物館があっても、これほど資料があるところはむしろ少ない。それほどの財産がここにあるということになる。
田代委員	・その資料を、今後の市史編さんにも生かし、体制も整えてもらいたい。
田村委員	・今回の題名の副題に“未来へつながる通史”的なトピックスの意味を込めたいが、言葉にすると難しい。
岸田委員長	・いろいろ意見の中で、名称については『行田市史普及版 行田の歴史』という形で進めていってよいか。
各委員	○「はい」の声あり。
岸田委員長	・巻末に紹介のページを設けて欲しいという意見も言ったが、編集の先生方におまかせするので、市民の皆様を行田市史へ誘う本として使えるようにしていただきたい。それでは以上で（２）について承認しました。次に（３）今後の市史編さんについて事務局から説明いただきたい。
事務局(中島)	○Ｐ６、７を基に説明。刊行が前年計画より１年遅れる予定の説明。
岸田委員長	・（３）について、何か意見・質問があればお願いしたい。
田代委員	・考古編は市民だけでなく、考古学の専門家からも埼玉古墳群をはじめとして、どのように取り込むか期待されているところがある。逆に、まだかと待っていることもある。慎重にならざるを得ない。行田に考古編が無いのはおかしい。材料が無いわけではない
岸田委員長	・埼玉県に二つ国宝がある中の一つ、金錯名鉄剣があるのが行田市である。今後も、考古の市史編さんに力を入れてほしい。 では、（３）について、そのようなことでよいか。
各委員	○「はい」の声あり。
岸田委員長	以上で本日の議事日程は終わりである。議事の進行を事務局にお返しする。
事務局(中島)	６．閉会（あいさつ 中島課長）